



プレミアム88への 重要なポイント(穂肥)

**適期に適量の穂肥を散布することで、整粒と食味の向上を両立させ
プレミアム88を目指しましょう!**

■穂肥施用時の注意点(生育・地力に応じた施肥量、時期の判断)

穂肥の施用は、収量の増大や登熟の向上など稲の生育後期に重要な作業です。施用時期は基本的に、幼穂の長さで出穂日を予想して判断します。コシヒカリ・滋賀羽二重糯は幼穂長1cm(出穂18日前)、みずかがみ・キヌヒカリ・日本晴は幼穂長1mm(出穂25日前)が穂肥の施用時期の目安となります。施肥量は葉色と株張りによって判断します。

良食味米生産のためには穂肥の適正な施用が重要で、多肥施用や実肥はタンパク含量を増加させ、食味低下の要因となることが知られています。一方で、食味を重視するあまり穂肥を極端に減肥し、登熟期に栄養不足となっていることもあります。近年、高温登熟障害による乳白粒や未熟粒の発生など、外観品質低下の原因と考えられていますので、生育量に応じた穂肥の適正な施用が重要です。

■高温気象条件下におけるコシヒカリの穂肥について

近年、登熟期間の気温が高く経過することにより、稲の栄養を維持し白未熟粒による外観品質の低下を防ぐため、葉色が薄い場合は追肥を施用します。

- 追肥の施用時期は、**出穂期から穂ぞろい期**です。
- 追肥の量は10aあたり窒素成分で**1~2kg程度**です。

水稻カドミウム・リスク対策技術(湛水管理)

水稻カドミウム・リスク対策技術

湛水管理が始まります!

稲への吸収が活発となる出穂前後各3週間は、カドミウムの吸収抑制技術の**湛水管理**期間です。

この技術を実施し、カドミウム吸収を抑制しましょう。

湛水管理の状態



JAレーク伊吹農産物安全対策協議会